

平成25年度 第17回三遠南信地域資料展

ふるさとの 妖怪をたずねて



古来、日本人が恐れつつも親しんできた妖怪たちを、ふるさとに伝わる不思議な民話や伝説とともに紹介しました。
(面：中島三郎氏蔵)

期間●平成26年2月8日(土)～3月9日(日)
会場●中央図書館 2階展示コーナー



会場でお楽しみようす



会場のようす

17回目となる「三遠南信地域資料展」は、「ふるさとの妖怪をたずねて」というテーマで行いました。「妖怪」は全国的にイベントも多く、特に若い層に人気があります。その歴史をたどると、民俗学や文学、絵画、歴史など学問的にも奥深い分野です。展示会場は、子どもから大人まで楽しめるように、パネルや本のほかに、いろいろな種類のお面を飾り、雰囲気を出しました。また、その地域の妖怪にまつわる本や人形なども展示し、親しみをもてるようにしました。特に、早川孝太郎の描いた日本画「或る想出」は、地元ファンやゆかりの方々に観ていただくいい機会となりました。

3,422人の来場者は、10代から80代まで幅広い層にわたりました。アンケートや来場者の声から、それぞれがいろいろな方向から「妖怪」をとらえ、新しい見方で地域をみつめるきっかけにいただけたことがわかりました。



「或る想出」と早川孝太郎の紹介



展示パンフレット

記念講演

妖怪と日本人の心



講師
小松和彦氏
国際日本文化研究センター所長
平成25年秋の紫綬褒章受章

平成26年2月22日(土)
13:30～15:00

会場●中央図書館 3階集会室
定員●150名(先着順)

記念講演会「妖怪と日本人の心」には、市内外から、140人の参加者がありました。小松和彦氏は、日本人が親しんできた妖怪と日本の文化について、プロジェクターで絵を紹介しながら、わかりやすくお話され、あっという間の1時間半でした。



また展示最終日には、ファイナルイベントとして「ようかいのおはなしよみかぜ」を開催しました。妖怪の絵本を楽しんだ後は、展示会場に隠れている答えを探す、クイズも行いました。

クイズに正解した子どもたちには景品をプレゼントしました。

